第２回　福岡市道路整備懇談会

日時　令和２年７月27日(月)10：00～12：00

場所　エルガーラホール　７階　会議室２

議　事　次　第

１．開会

２．福岡市道路整備懇談会設置要綱の変更について

３．議事

（１）第１回懇談会の振り返りと補足説明について　資料１

（２）今後の道路整備の基本的な考え方（案）について　資料２

（３）次回の懇談会について

４．閉会

＜配布資料＞

座席表

資料１　第１回懇談会の振り返りと補足説明について

資料２　今後の道路整備の基本的な考え方（案）について

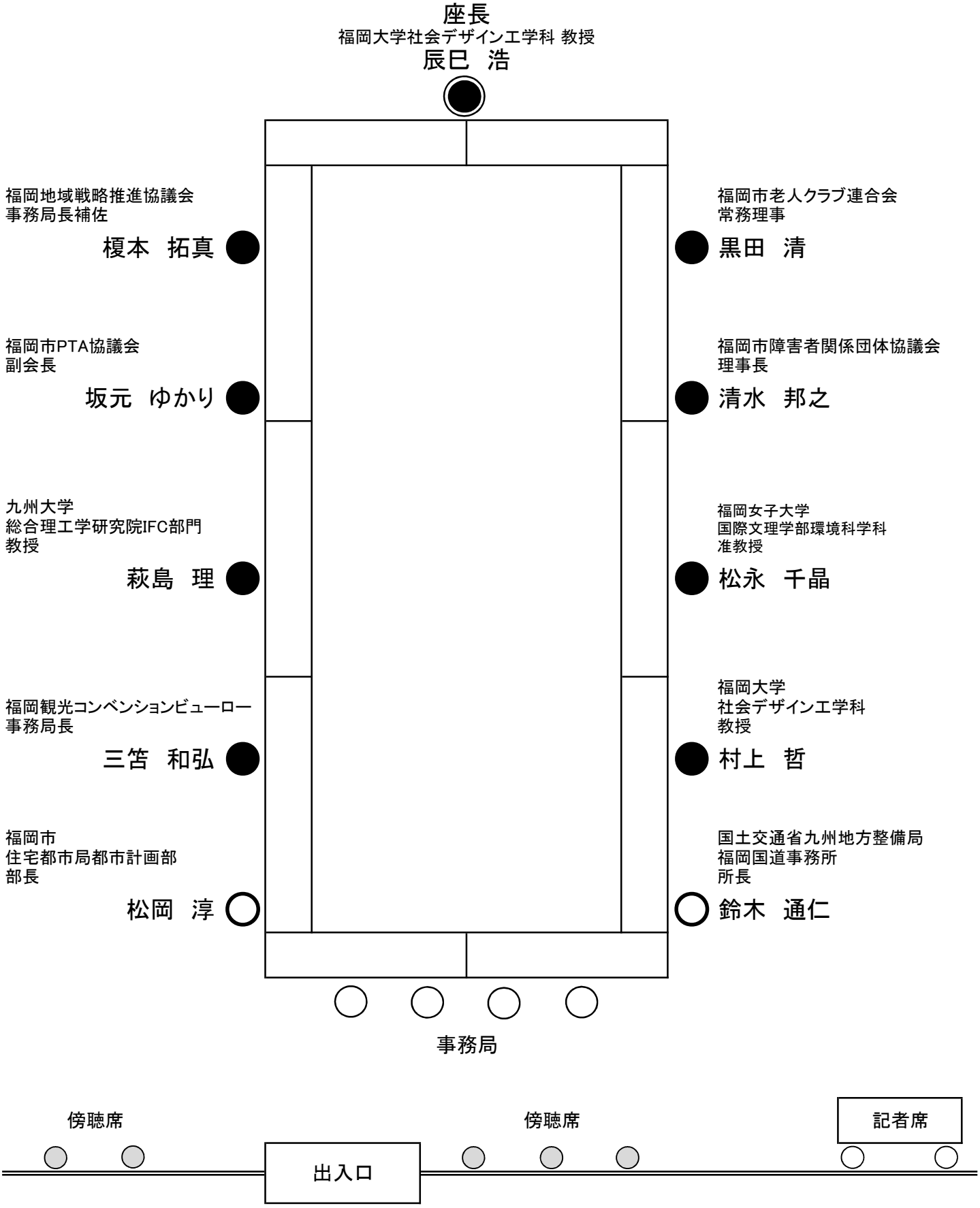
参考資料１　福岡市道路整備懇談会設置要綱・傍聴要領

参考資料２　第１回福岡市道路整備懇談会資料（資料４のみ）

参考資料３　第１回福岡市道路整備懇談会議事録

座 席 表

日時：令和2年7月27日（月）10:00～12:00
場所：エルガーラホール　7階　会議室2



新 福岡市道路整備アクションプラン

第1回福岡市道路整備懇談会の振り返りと補足説明について～懇談会での主な意見と対応～

【資料1】

■第1回福岡市道路整備懇談会で頂いた主な意見とその対応について

主な意見の要旨	対応
P3：財政	
・道路予算の推移グラフの、道路・街路事業費にも、維持管理費が含まれていることを、分かるように工夫した方がよい。	・道路予算に含まれる維持管理費については、2ページ目で説明。
P3：防災	
・通常の道路点検に加え、道路周辺や災害時を想定した、点検項目を検討した方がよい。	・道路施設の維持管理については、通常の道路点検に加え、災害に備えるため、出水期前に排水施設や法面などの点検を実施している。今後も災害に応じた点検内容を検討するなど、防災・減災に取り組んでいく。
・センシング技術の導入や過去の陥没の事例を踏まえた、計画的な維持管理に取り組んでみてはどうか。	・センシング技術を活用した維持管理については、点検が困難な橋梁においてドローンの活用を検討している。また、道路についても、過去の空洞発生特性などを分析して抽出された路線などを対象に、地中探査レーダ技術を活用した路面下空洞調査を実施し、事故の未然防止にも取り組んでおり、今後も技術開発の動向に注視していく。
・避難場所への経路も考慮した、道路整備を検討して欲しい。	・今後、避難場所の指定状況などを踏まえ、関係局と連携しながら、対策について検討していく。
P4：都心部のまちづくり	
・交通渋滞への対応や様々な立場の人が無理なく移動できる道路・交通体系の構築を検討して欲しい。	・渋滞対策については、幹線道路の整備やボトルネックとなる交差点の改良を進めるとともに、公共交通の強化や利便性の向上などのソフト対策や都心部への交通流入を抑制する隔地駐車場の導入など、総合的に取り組んでいく。 ・道路整備については、バリアフリー化や歩車分離など、すべての人が安心して歩ける道づくりに取り組んでいく。
・生活道路の交通安全対策に取り組んで欲しい。	・生活道路の安全対策については、路面標示や区画線、防護柵の設置など、誰もが安心して歩けるよう、歩行空間の整備に取り組んでいく。
P5：交通事故	
・車のドライバーの交通マナー向上につながる道路整備を検討して欲しい。 ・他都市と比較して交通事故が多いという結果を受けて、今後の道路整備はどうしていくのか。	・交通事故件数については、年々減少傾向であるが、他都市と比較すると依然として高い傾向であるため、交通管理者や関係局と連携し、交通マナー向上の啓発活動を行うとともに、ハード・ソフトの両面から交通安全対策に取り組んでいく。

主な意見の要旨	対応
P6-7：公共交通	
・高齢者アンケートの前提条件が不明瞭であるため、取り方を検討して欲しい。	・アンケート調査では、移動の目的や方法については調査していないため、今後の調査からは、設問の仕方を工夫していく。
・自動運転やキックボードなど最新技術の動向等を考慮し、利用者の多様性を考慮した道路空間の再配分を検討して欲しい。	・新たな交通手段への対応については、長期的な視点での検討が必要であり、国や技術開発の動向などに注視しながら、検討していく。
P8：維持管理	
・高齢者や障がい者などに配慮した、バリアフリーや維持管理を検討して欲しい。	・ユニバーサルデザインの理念に基づき、すべての人が安心して歩けるよう、関係者の意見を取り入れながら道路のバリアフリー化や維持管理を行っていく。
P8：渋滞	
・AIを活用した、渋滞状況の情報提供を検討して欲しい。	・ドライバーへの道路交通情報の提供については、交通管理者を中心に情報提供に取り組んでいるが、いただいた意見を踏まえ、今後も交通管理者などに働きかけていく。
P9：ビジョンと柱	
・ビジョン1と3が類似しているが、整理して欲しい。	・ビジョン1と3の違いについては、3ページ目で現計画の考え方を説明。また、今後の道路整備の基本的な考え方（案）については、5ページ目以降で整理したものを改めて説明。
・ビジョン2に都市の魅力とあり、指標として歩行者交通量を使用しているが、交通量が増加したらどのような魅力が上がるのかわからない。	・ビジョン2は、基本計画の分野別目標の一つである「磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている」状態を達成することを目指しており、都市の魅力が高まり、様々な人が集まってきたことを定量的に評価する手段として、回遊する歩行者の交通量を設定している。成果指標については、国の計画や委員の意見を踏まえ、引き続き検討し、誰もが歩きたくなる歩行空間の整備・活用に取り組んでいく。
P10：バス利用環境	
・バス停の上屋・ベンチの設置基準はあるのか。	・設置基準については、2ページ目で説明。
P13：市民ニーズ	
・パンデミック、自動運転などの新技術、超高齢化社会になった時の道路空間の考え方の検討をして欲しい。	・道路空間の再配分については、道路状況や社会情勢などを踏まえた長期的な視点での検討が必要であり、国や技術開発の動向などに注視しながら検討していく。

第1回福岡市道路整備懇談会の振り返りと補足説明について～補足資料～

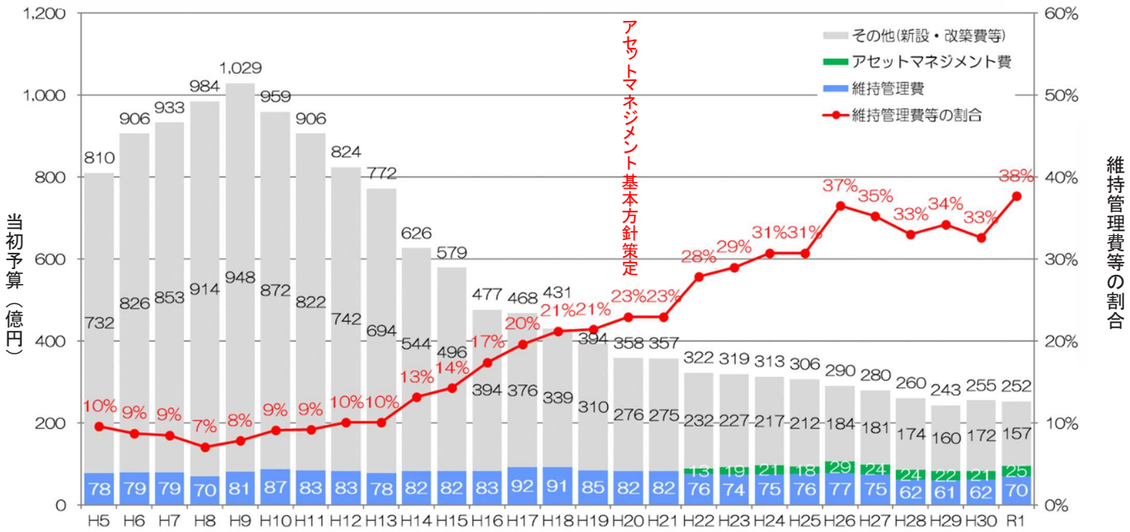
【資料1】

＜財政＞

○道路予算（一般会計）の推移と維持管理費の内訳

アセットマネジメント基本計画策定後のアセットマネジメント費を含む維持管理費等は横ばいであり、予算全体に占める維持管理費等の割合は増加傾向となっています。

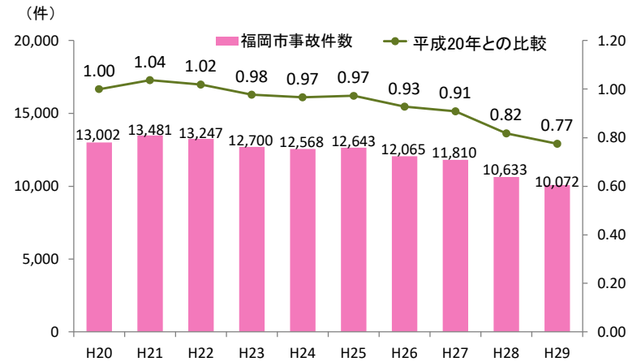
道路予算（一般会計）と維持管理費等の割合の推移



＜交通事故＞

他都市と比較すると、自動車1万台あたりの交通事故発生件数がワースト2位ですが、通学路の歩道整備や路側のカラー化、自転車通行空間の整備など、市民の交通安全確保に資する取り組みを進めてきた結果、事故件数は減少傾向となっています。

交通事故発生件数の推移



資料：福岡市統計書

＜自動車、公共交通＞

今回のアンケート調査では、「外出の際に最も頻繁に利用する徒歩以外の交通手段」について回答を得ています。今後は、ご指摘を参考に地域の特性や回答者の実態に配慮した設問の検討を行っていきます。

問２５　外出の際，あなたが最も頻繁に利用する徒歩以外の交通手段はどれですか。あてはまるものを１つだけ選び，番号に○をつけてください。

1　自動車（自分で運転）	6　バス
2　自動車（自分以外が運転）	7　バイク
3　タクシー	8　自転車
4　地下鉄	9　その他
5　電車（JR/西鉄）	無回答

＜バス利用環境の改善＞

バス停の上屋・ベンチの設置は、「高齢者、身体障がい者などの支援」や「公共交通利用者の支援」の観点から、以下の設置基準に基づき取り組みを進めています。

○設置基準

1　高齢者・身体障がい者などの支援

① 福岡市バリアフリー基本計画における重点整備地区内の生活関連経路上にあるバス停

② ①以外で，公共施設や福祉施設，病院などの最寄りのバス停

2　公共交通利用者の支援

③ 公共交通の乗継箇所（鉄道からバス，バスからバス）となるバス停

④ 公共交通空白地等に居住される方が利用するバス停

⑤ ④以外で鉄道空白地において交通の軸となる幹線道路上のバス停

○進め方

1　道路管理者においては，「設置基準①②④⑤」のバス停における上屋及びベンチの設置

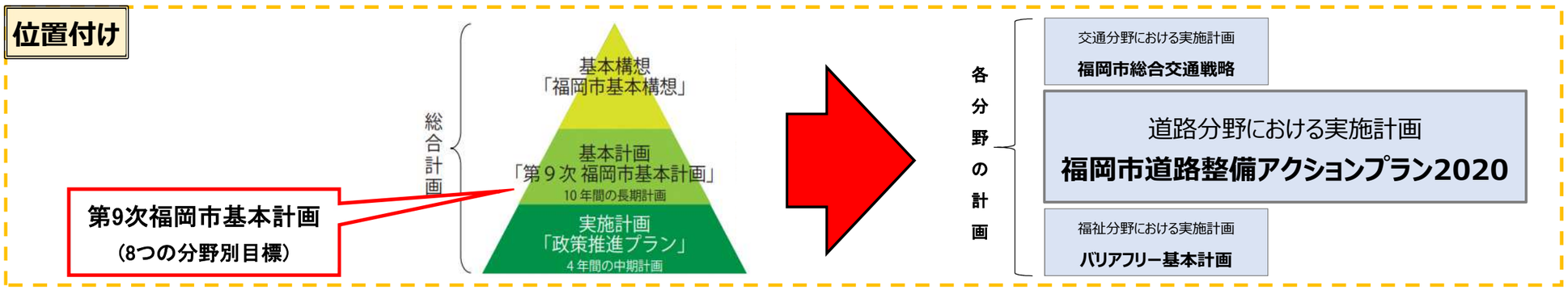
2　設置基準③については，バス事業者に設置を働きかけていく

※但し，道路条件によっては，設置できないバス停もあります。

■現計画の振り返り：3 つのビジョンと考え方

福岡市道路整備アクションプラン2020は、福岡市の将来の健全な発展を促進するために策定する市政の**総合計画に基づいて**、道路分野における中期的な方向性や目標、優先的・重点的に取り組む事業を示したもので、以下に、基本計画と現アクションプランの考え方を整理した。

位置付け



【第9次福岡市基本計画（分野別目標）】

目標1：一人ひとりが心豊かに暮らし、元気で輝いている

ユニバーサルデザインの理念によるまちづくりが進み、誰もが思いやりをもち、すべての人にやさしいまちになっています。一人ひとりが互いに人権を尊重し、国籍や年齢、性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合いながら、いきいきと輝いています。

目標5：磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている

海をはじめとする自然、歴史、文化、食、スポーツ、商業施設などの多彩な資源が磨きあげられ、回遊性の高さやおもてなしなどにより、アジアの交流拠点として、世界中から人々が集まっています。

目標8：国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている

都心部を中心とした高度な都市機能と、国際交流のゲートウェイにふさわしい充実した港湾・空港機能などにより、福岡都市圏は国際競争力の高い地域として国内外から評価されています。

目標2：さまざまな支え合いとつながりができている

地域コミュニティ、NPO、ボランティア、**企業**、行政などさまざまな主体が、それぞれの知恵やノウハウなどを持ち寄って**共働**しており、その相乗効果によってさまざまな社会課題を解決しています。

目標3：安全・安心で良好な生活環境が確保されている

災害に強い都市基盤が整備され、消防・救急医療体制が充実しています。また、地域において自主防災組織を中心とした共助の仕組みがつくられ、災害への即時体制が強化されています。

【福岡市道路整備アクションプラン2020】

ビジョン1：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

ユニバーサルデザインの理念(※1)に基づき、誰もが思いやりをもち、すべての人にやさしいまちの実現を目指し、すべての人が安全で快適に利用できるよう、道路のバリアフリー化などを進めます。

（※1）ユニバーサルデザインの理念
年齢、性別や国籍、障がいの有無等を問わず、すべての人が自由に快適に利用でき、行動できるような思いやりあふれる配慮を、まちづくりやものづくりなどのあらゆる場面で、ハード・ソフトの両面から行っていこうとする考え方

ビジョン2：都市の魅力に磨きをかける道づくり

都心部を中心とした高度な都市機能と、国際交流のゲートウェイにふさわしい充実した港湾・空港機能などを有する、国際競争力の高い都市として、九州・アジアを牽引するため、物流・交流を支える道路整備をはじめ、都心部や活力創造拠点、市民生活の核となる広域拠点や地域拠点などの機能強化を支える道路整備を進めます。

ビジョン3：市民の安全・安心をささえる道づくり

激甚化する気象災害に備えるとともに、老朽化する道路施設への対応も求められていることから、**防災・減災に資する道路整備や道路の適正な維持管理**を進めます。また、**市民や企業と共働**し、道路の安全・安心をみんなで守る取り組みを進めます。

新 福岡市道路整備アクションプラン

第1回福岡市道路整備懇談会の振り返りと補足説明について～イメージ写真～

【資料1】

＜橋梁点検＞

従来は橋梁点検車を利用して人手で観測を行ってきたが、今後はドローンなどを活用した点検を行うことを検討している。

従来の橋梁点検方法

・橋梁点検車等を使った目視検査
・時間がかかるうえ、事故リスクもある

ドローン等の活用により、点検効率化・安全性の確保を図る

新技術（ドローン等ロボットの活用）

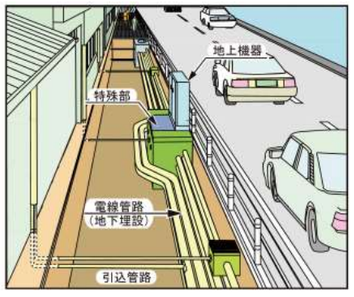
・ドローン等のロボットを使った検査
・短時間で検査でき、事故リスクも軽減

資料：道路下水道局提供

＜無電柱化の推進＞

近年の災害の激甚化、観光需要の増加等の社会情勢の変化を踏まえて無電柱化を推進することで、福岡市の魅力あふれる美しいまちなみを形成し、安全・安心なくらしを確保していく。

無電柱化（地中化）のイメージ



整備事例：後野福岡線

【整備前】

【整備後】

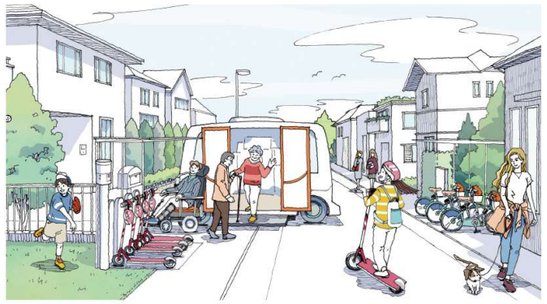
資料：道路下水道局提供

＜多様なモビリティを活用した道路空間の検討＞

電動キックボードや自動運転バスなどの多様なモビリティを活用し、誰もが便利に移動できる道路空間づくりを進めていく。

中長期的な道路政策の方向性（目指すイメージ）

●マイカーなしでも便利に移動できる道路



マイカーを持たなくても便利に安心して移動できるモビリティサービス

●持続可能な物流システム

ロボット配送によりラストマイル輸送を自動化・省力化

資料：2040年、道路の景色が変わる（国土交通省）

今後導入を検討していく多様なモビリティ

電動キックボード

・駅やバス停から目的地までのラストワンマイルの移動手段として活用を検討
・手軽な交通手段として期待

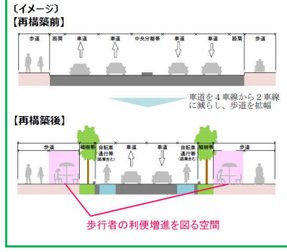
自動運転バス

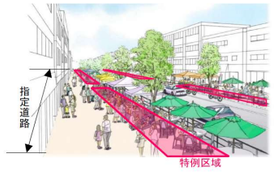
・運転手不足が慢性化する中、持続可能な公共交通として高い期待
・再開発に伴う区画整理時に、道路にセンサーをあらかじめ埋め込むなどし、自動運転用のインフラを整えた街づくりも検討

資料：道路下水道局提供

道路空間の再配分（イメージ）

・**社会や経済情勢の変化に応じて、自動車の安全かつ円滑な通行が主目的であった道路空間の利活用へのニーズも変化**してきているため、民間団体との連携を強化し、より一層魅力的な道路空間を創造する必要がある





曜日や時間帯に応じて道路空間の使い方が変わる路側マネジメント

資料：「多様なニーズに応える道路空間」のあり方に関する検討会について（国土交通省）
2040年、道路の景色が変わる（国土交通省）

新 福岡市道路整備アクションプラン

今後の道路整備の基本的な考え方(案)について～福岡市を取り巻く状況など～

【資料2】

福岡市を取り巻く状況

【人口】
・令和 17 年までは増加を続け、少子高齢化が進行

【物流・人流】
・海上貨物量・コンテナ量が増加傾向
・国際コンベンションの開催件数が増加傾向
・国内外からの観光客数が増加

【防災】
・大地震発生への備えが必要

【財政】
・道路事業の予算は年々減少し、維持管理費は横ばい

【道路を取り巻く計画】
・都心部でのまちづくりが進行
（天神ビックバン・博多コネクティッド・ウォーターフロント）

【交通事故】
・自動車台数あたりの交通事故件数は政令市でワースト２位
・高齢者に関連する事故の割合が増加

【自動車・公共交通】
・鉄道利用者、バス利用者ともに増加
・多様なモビリティを活用した移動手段の検討が進行

【道路状況（整備、維持管理）】
・都市計画道路の整備率は 83.9%（平成 30 年度末時点）
・建設後 50 年を経過する橋梁は今後も増加
・市内の主要渋滞箇所は 27 箇所

【環境】
・道路照明灯のＬＥＤ化を推進

【新型コロナウイルス感染症】
・感染症拡大防止への対応

市民意見（ニーズ）

【力を入れていくべき道路事業】
・自転車通行空間の整備
・道路上にある電柱や電線類を地下へ埋設
・歩道の整備（歩道の設置や拡幅、段差解消など）

全体の約5割

※意見の多かった上位３つを記載

※H30 福岡市政アンケート結果より

第一回道路整備懇談会での意見

【ビジョン１：ユニバーサル都市･福岡を実現する道づくり】
・生活道路の交通安全対策
・交通事故対策
・ドライバーの交通マナー向上施策の検討
・すべての人が無理なく移動できる道路や交通体系の確保

【ビジョン２：都市の魅力に磨きをかける道づくり】
・AI を活用した、渋滞状況などの情報提供手段の検討
・多様性を考慮した道路空間の再配分の検討
（自動運転やキックボードなど）
・渋滞対策

【ビジョン３：市民の安全・安心をささえる道づくり】
・避難場所への経路を考慮した道路整備の検討
・道路周辺や災害時を想定した道路施設の点検
・最新技術や過去の事例を活用した道路施設の点検

福岡市や国の計画等

【福岡市の計画】
・FUKUOKA NEXT（H28.3）
⇒福岡市を次のステージへ押し上げるまち全体でのチャレンジ
・第10次福岡市交通安全計画（H28.10）
⇒安全で安心な福岡市を実現するため、陸上交通の安全に関する総合的かつ長期的な施策の大綱
・福岡市データ活用推進計画（R1.6）
⇒データを活用した市民の利便性向上を図る
・福岡市無電柱化推進計画（R1.6）
⇒無電柱化をより総合的かつ計画的に推進
・福岡市橋梁長寿命化修繕計画（R2.3）
⇒新技術を活用しながら予防保全型の維持管理を実施
・福岡市道路施設個別施設計画（R2.3）
⇒計画的な道路管理を実施
・新型コロナウイルス感染症対策
⇒新しい生活様式（3密の回避や時差出勤等）の実践

【国の計画等】
・SDGs(H27.9)
⇒「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現
・社会資本整備審議会　道路分科会（H29.8）
⇒新たな道路政策の方向性と具体的提案等
・自転車活用推進計画（H30.10）
⇒自転車の活用の推進に関する総合的かつ計画的な推進
・ウィズコロナの道路施策
⇒（１）自転車通勤・通学の促進
（２）物流事業者が利用する休憩施設の環境整備
（３）臨時・暫定的な路上活用
・ポストコロナの道路施策
⇒新しい生活様式や社会経済を支える道路施策を検討

新 福岡市道路整備アクションプラン

今後の道路整備の基本的な考え方（案）について～次期道路整備のビジョンと柱（案）～

【資料2】

■次期道路整備のビジョンと柱（案）

今後の道路整備の方向性

交通事故の発生件数は依然として多く、歩行者と自転車の安全確保に対しての市民ニーズも高いことから、より効果的・効率的な交通安全対策に取り組むなど、子どもや高齢者をはじめ、国内外の来街者なども含め、**誰もが安心して移動できるような道路整備**が求められている。

今後も人口増加が見込まれ、人流・物流も盛んであることから、自動車専用道路や幹線道路などの整備に取り組み、**道路ネットワークの構築**を図るとともに、市民や来街者が**まちを楽しめるような空間**づくりや新たな技術の導入や多様化するモビリティに対応するための検討に取り組むなど、**都市の成長を支える道路整備**が求められている。

激甚化する気象災害に備えるため、緊急輸送道路の整備や無電柱化を推進し、**防災・減災に資する道路整備**に取り組むとともに、老朽化する道路施設の点検などに新たな技術を活用するなど、**道路の適正な維持管理**が求められている。

ビジョン1：ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

● 柱1：人に優しい道づくり

子どもや高齢者、障がい者をはじめ、誰もが安心して歩けるよう、歩道のフラット化などユニバーサルデザインに基づいた道路整備を進めるとともに、**ビッグデータなども活用した効果的・効率的な交通安全対策に取り組みます。**

【新しいキーワード】

・**ビッグデータなども活用した交通安全対策**

● 柱2：公共交通を活かす道づくり

車から公共交通への利用転換を促し、道路交通混雑の緩和を図るため、車に依存することなく、誰もが安心して移動できるよう、総合交通体系の構築を支える道路整備やバス利用環境の改善などを進めます。

● 柱3：自転車と共生する道づくり

歩行者の安全を確保しながら、自転車、自動車など、誰もが安全で快適に移動できるよう、自転車通行空間の整備や放置自転車対策などを進めます。

ビジョン2：都市の魅力に磨きをかける道づくり

● 柱4：経済活動を支える道づくり

九州・アジアにおける「人・物」の広域交通・連携を支えるため、経済活動や物流・交流を支える幹線道路の整備などを進めます。

● 柱5：FUKUOKAを楽しむ道づくり

誰もが福岡に魅力を感じ、安心して回遊できるよう、賑わい空間の形成や来訪者をもてなす道路整備・活用を進めます。

● 柱6：まちづくりと連携した道づくり

都市の活力や市民生活の核となる拠点づくりを支えるため、まちづくりと連携した道路空間の整備、**検討**や民間開発等の機会を捉えた道路空間の整備、活用、維持管理を進めます。

【新しいキーワード】

・**多様なモビリティに対応した道路空間の検討**

ビジョン3：市民のくらしを守る道づくり

● 柱7：災害に強い道づくり

災害時においても必要な「人・物・情報」のネットワークを確保し、市民の安全・安心を保つため、緊急輸送道路の整備や無電柱化などを進めます。

● 柱8：次世代に繋ぐ道づくり

生活に欠かせない「道路」を将来にわたって安心して安全に利用できるよう、定期点検や予防保全による維持管理を進めるとともに、ICTや地理空間情報**およびドローンなど**を活用し、効率的・戦略的な維持管理に取り組みます。

【新しいキーワード】

・**新技術を活用した点検の検討**

● 柱9：環境に配慮した道づくり

地球温暖化の防止や大気環境の改善、道路交通騒音の低減など、環境への負荷を減らすため、道路照明灯のLED化や環境に配慮した舗装の整備などを進めます。

● 柱10：みんなで守り育む道づくり

道路への関心と愛着を育み、地域住民や企業等と行政の共働による安全・安心なまちを創るため、防犯灯設置への助成や、市民による定期的な清掃、見守り、花壇づくりなどの道路の保全活動を促進するとともに、道路に関する情報提供など、広報・広聴の強化に取り組みます。

新 福岡市道路整備アクションプラン

今後の道路整備の基本的な考え方（案）について

【資料2】

■道路整備の基本的な考え方（案）

現在の「福岡市道路整備アクションプラン2020」における道路整備の基本的な考え方については、上位計画である「福岡市総合計画」を反映し、平成29年度から令和8年度までの10年間を対象に策定していました。このため今後の道路整備の基本的な考え方については、現計画を踏襲した上で、本市を取り巻く状況や市民ニーズ、道路整備懇談会の意見を踏まえ、下記のとおり見直しを行うことを提案します。

（現計画）

ビジョン1 ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

1 人に優しい道づくり
- 道路のバリアフリー化
- 通学路の安全対策や歩行空間の整備
- 交通安全対策

2 公共交通を活かす道づくり
- 総合交通体系の構築を支える道路整備
- バス利用環境の改善

3 自転車と共生する道づくり
- 自転車通行空間のネットワーク強化
- 放置自転車対策
- 使いやすい駐輪場の確保にあわせた路上駐輪場の段階的な廃止

ビジョン2 都市の魅力に磨きをかける道づくり

4 経済活動を支える道づくり
- 自動車専用道路の整備
- 幹線道路の整備
- ボトルネック箇所の改善
- 連続立体交差事業の推進

5 FUKUOKAを楽しむ道づくり
- 誰もが歩きたくなる歩行空間の整備・活用
- 沿道景観と調和した道路空間の整備
- わかりやすい道案内への取り組み

6 まちづくりと連携した道づくり
- 拠点のまちづくりと連携した道路空間の整備
- 民間ビル等の建替えと一体となった道路空間の整備・活用・維持管理
- 駐車場瀬策の推進

ビジョン3 市民の安全・安心をささえる道づくり

7 災害に強い道づくり
- 緊急輸送道路の整備
- 無電柱化の推進
- 狭あい道路拡幅整備の推進

8 次世代に繋ぐ道づくり
- 道路施設・橋梁の計画的補修による長寿命化
- 道路の効率的・戦略的な維持管理

9 環境に配慮した道づくり
- 道路照明灯のＬＥＤ化
- 排水性舗装・透水性舗装の整備
- 道路緑化

10 みんなで守り育む道づくり
- 防犯灯のＬＥＤ化の促進
- 市民等との共働による道路環境の保全
- 道路占用の適正化
- 広報・公聴の強化

（新計画（案））

ビジョン1 ユニバーサル都市・福岡を実現する道づくり

1 人に優しい道づくり
- 道路のバリアフリー化
- 通学路の安全対策や歩行空間の整備
- ビッグデータなども活用した交通安全対策

2 公共交通を活かす道づくり
- 総合交通体系の構築を支える道路整備
- バス利用環境の改善

3 自転車と共生する道づくり
- 自転車通行空間のネットワーク強化
- 放置自転車対策
- 使いやすい駐輪場の確保にあわせた路上駐輪場の段階的な廃止

ビジョン2 都市の魅力に磨きをかける道づくり

4 経済活動を支える道づくり
- 自動車専用道路の整備
- 幹線道路の整備
- ボトルネック箇所の改善
- 連続立体交差事業の推進

5 FUKUOKAを楽しむ道づくり
- 誰もが歩きたくなる歩行空間の整備・活用
- 沿道景観と調和した道路空間の整備
- わかりやすい道案内への取り組み

6 まちづくりと連携した道づくり
- 拠点のまちづくりと連携した道路空間の整備
- 民間ビル等の建て替えと一体となった道路空間の整備・活用・維持管理
- 駐車場施策の推進
- 多様なモビリティに対応した道路空間の検討

ビジョン3 市民のくらしを守る道づくり

7 災害に強い道づくり
- 緊急輸送道路の整備
- 無電柱化の推進
- 狭あい道路拡幅整備の推進

8 次世代に繋ぐ道づくり
- 道路施設・橋梁の計画的補修による長寿命化
- 道路の効率的・戦略的な維持管理
- 新技術を活用した点検の検討

9 環境に配慮した道づくり
- 道路照明灯のＬＥＤ化
- 排水性舗装・透水性舗装の整備
- 道路緑化

10 みんなで守り育む道づくり
- 防犯灯のＬＥＤ化の促進
- 市民等との共働による道路環境の保全
- 道路占用の適正化
- 広報・広聴の強化